

第127回経営協議会議事要録

日時 令和6年11月21日（木）13時30分～14時20分

会場 医学部キャンパス管理棟3階大会議室

出席者（委員）

長田・進藤・山本・山中・窪田・野田・吉岡・齊藤・佐々木 各委員

中村学長、黒澤・奥田・茅・片田・市川・木内 各理事

（列席者）

小林理事、小俣・數野 各監事、埴副学長

土屋・深澤・種田・壬生・雨宮・小谷・石原 各部長、

永倉・植村・齊藤・岩元・白澤・大坂・笹原・大森・千野・赤澤（代理） 各課長

議事要録確認

第126回（R6.9.18開催）の経営協議会議事要録を確認した。

審議事項

1 人事院勧告に伴うベースアップ等（案）について

片田理事から、資料1により、人事院勧告に伴うベースアップ、及び就業規則の一部改正について説明があり、審議の結果、これを承認した。

2 「共創環境棟（仮称）」の整備等（案）について

市川理事から、資料2により、工学部100周年記念事業の一環として行う標記整備の概要について説明があり、併せて、壬生施設・環境部長から整備方法について補足説明があり、審議の結果、これを承認した。

3 附属中学校グラウンドの改修等（案）について

市川理事から、資料3により、標記グラウンドを経年劣化に伴い改修すること、及び同改修後はグラウンドへの車両の乗り入れを禁止することについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

報告事項

1 令和5年度における学長の業務執行状況の検証結果について

片田理事から、資料4により、標記検証結果に関し、総合的見地から良好と判断されたことについて報告があった。

2 新学環開設に向けた対応について

黒澤理事から、資料5により、新学環開設に向け、「新学環開設準備委員会」及び「新学環開設準備室」を設置することについて報告があった。

3 山梨大学発ベンチャーの認定について

市川理事から、資料6により、新たに標記ベンチャーを認定（2件）したことについて報告があった。

4 ネーミングライツ事業者等について

市川理事から、資料7により、ネーミングライツ制度を活用し、新たに標記事業者等を決定したことについて報告があった。

5 令和6年度 附属病院収支状況について

木内理事から、資料8により、令和6年度における附属病院の収支見込み額について報告があった。

その他

- ・野田委員から、非合法なアルバイト（いわゆる闇バイト）や麻薬の問題が大きく取り上げられていることから、大学として対策を講ずるべきではないかとの意見があり、中村学長から学生に対して引き続き注意喚起をしていきたい旨の回答があった。

- ・片田理事から、本会議の令和7年度開催日程については後日事務担当から確定した日程を連絡する旨の説明があった。

次回会議 令和7年1月23日（木）13時30分から甲府キャンパスで開催することを確認した。

学外委員からの意見・質問

審議事項

1 人事院勧告に伴うベースアップ等（案）について

（山本委員）

- ・来年度以降の予算編成についてどのような見通しを立てているのか。

（片田理事）

- ・経費削減に努めていきたい。授業料の値上げについては、高等教育機関全体でどのような影響があるかなども慎重に考えていかなければならない。

（山本委員）

- ・大学の予算については大学だけでなく、社会にも考えてもらう（世論の考慮）必要があると考えている。

（佐々木委員）

- ・一人当たりでどの程度の額の賃金増加になっているのか

（片田理事）

- ・平均では2.76%の増加となっている。

2 「共創環境棟（仮称）」の整備等（案）について

（野田委員）

- ・共創環境棟を地域住民への貸出す際の貸出料は考えているのか。

（市川理事）

- ・原則として貸出した際は使用料の徴収を考えているが、一定の条件を満たす貸出については無償にしようと考えている。

（野田委員）

- ・建物の維持管理費はどの程度なのか。また、運営については寄附や補助金で賄える範囲なのか。

（市川理事）

- ・維持管理に必要な運営費については概算で300万円程度が見込まれる。運営費については原則使用料で賄う予定であるが、学内経費での補填も考えている。

（中村学長）

- ・運営には一定の経費がかかるが、地域の方に役立てるようにしていきたい。

3 附属中学校グラウンドの改修等（案）について

（野田委員）

- ・グラウンドを駐車場として使用した場合にどの程度の補修工事及び費用が必要になるのか。

（市川理事）

- ・耐久年数である30年間はグラウンドを駐車場として使用しなかった場合の年数になるので、駐車場として使用した場合は、それ以上に短い期間での補修工事が必要となる。また、同補修工事には約500万円程度の補修費用が見込まれる。

（進藤委員）

- ・大学のグラウンドを附属小学校や中学校が共用することは可能なのか。

（片田理事）

- ・共用することは可能なので、大学施設と附属施設をどのようなかたちで共用をしていくのか考えていきたい。

報告事項

1 令和5年度における学長の業務執行状況の検証結果について

(山本委員)

- ・役員はもとより、教職員一人一人が大学の将来についてしっかりと考えることが重要である。

2 新学環開設に向けた対応について

(野田委員)

- ・学環を新設するという事は、学部を新しく設立するようなものなのか。

(黒澤理事)

- ・イメージとしては学部と同様なものであり、学環の中にいくつかのコースをつくり、教育プログラムが動くという形態となる。

(進藤委員)

- ・山梨県立大学との関係性はどのようなかたちになるのか。

(黒澤理事)

- ・山梨県立大学とは大学アライアンスやまなしを構築しているので、学環も他の学部と同様に連携開設科目を利用したり、教員リソースを共有したりして効率的に運営していくよう考えている。

3 山梨大学発ベンチャーの認定について

(吉岡委員)

- ・山梨大学のように理工系の学部がある大学しかベンチャーの取組みをしていないのか。

(市川理事)

- ・必ずしも理工系に限った取組みではない。

(吉岡委員)

- ・全国と比較して山梨県内の大学発ベンチャーの取組みはどの程度なのか。

(市川理事)

- ・比較したわけではないが、様々な大学の関係者との話を聞くと、少し遅れていると感じるので、ベンチャーの取組みに関する意識の啓発を進めていきたい。

(進藤委員)

- ・大学発ベンチャーは大学へ帰属させなければならないのか。

(市川理事)

- ・教員が大学の資金を使用して行った研究を活用する場合は、一部大学にも権利があるという形態となるが、学生に関しては大学側の関与は少ないと考えられる。

4 ネーミングライツ事業者等について

(野田委員)

- ・今後も様々な施設でネーミングライツを広げていきたいと考えているのか。

(市川理事)

- ・産学官連携を進めるという観点でも広めていきたい。

(野田委員)

- ・金額の設定基準はどのようなものか。

(市川理事)

- ・本学で制定した規程に則って定めている。

(片田理事)

- ・施設(教室)の規模等を考慮して設定している。

(窪田委員)

- ・ネーミングライツは公募するだけでなく、自分たちからセールスに行くということも重要であるのではないか。

(片田理事)

- ・企業のイメージアップにつながるようなデザインを大学側でも検討して、PRしていく必要がある。

5 令和6年度 附属病院収支状況について

(長田委員)

- ・上半期での収入は令和5年度と比較して増加しているのか。

(木内理事)

- ・収入は増加しているが、光熱費等の支出も増加している。

(長田委員)

- ・政策的な医療での赤字を背負わなければならない部分もあるのか。

(木内理事)

- ・大学病院の使命として高度で不採算になりがちな分野にも取り組む必要がある。